

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00719

研究課題名（和文）13-15世紀におけるアラビア語文化圏再編の文献学的研究

研究課題名（英文）Arabic intellectuals in the period of change: 13th - 15th centuries

研究代表者

佐藤 健太郎（Sato, Kentaro）

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：80434372

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,400,000円

研究成果の概要（和文）：アラビア語を共通語として営まれる知識人活動の空間をアラビア語文化圏として捉え、13世紀以降に再編されたその諸相について検討を加えた。その際、イブン・ハルドゥーン（1406年没）とウマリー（1349年没）という14世紀の二人の知識人についての研究を軸とし、宗教諸学の知識と書記官僚の技能との関連を明らかにするとともに、マシュリク地域とマグリブ地域の二つから構成されるアラビア語文化圏の一体性と多様性について、様々な事例研究を積み重ねることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

狭義の宗教諸学を中心に理解されることの多かった前近代のアラビア語知識人についてより包括的に論じることができた。また、東アラブ地域（マシュリク）と西アラブ地域（マグリブ）との関係を検討し、アラビア語文化圏が必ずしも一枚岩ではないことを明らかにした。いずれも、茫漠としたイスラーム世界やアラブ世界といった概念だけでは、この地域を理解することができないことを示している。

研究成果の概要（英文）：Based mainly on the studies on the texts by Ibn Khaldun (d. 1406) and al-Umari (d. 1349), we made an investigation about various aspects of Arabic intellectuals in the age of change, 13th to 15th centuries. Our research achievements include relationship between religious scholarship and scribal craft, regional varieties found in al-Mashriq and al-Maghrib, and others.

研究分野：マグリブ・アンダルス史

キーワード：アラビア語文化圏 イブン・ハルドゥーン ウマリー ウラマー 文芸共和国

1. 研究開始当初の背景

前近代のムスリム社会を考えるうえで、知識人の存在はきわめて重要な意味を持つ。とりわけウマリーと呼ばれるイスラーム宗教学者については多くの研究が積み重ねられてきた。特に13～15世紀はマムルーク朝支配下のエジプト・シリアを中心に豊富な史料もあり研究が盛んである。

そうした中、本研究課題の構成メンバーたちは、イブン・ハルドゥーン(1406年没)の自伝およびウマリー(1349年没)の官僚手引書という14世紀の二人の知識人による著作についての研究を別個に遂行する過程で、以下のような二つの課題を認識するに至った。

第一は、イスラーム宗教学者という切り口だけでは捉え切れない知識人の幅広い知の営みを総体としてどのように捉えるかという点である。従来、宗教学者(ウマリー)と書記官僚(クッターブ)は、それぞれ別個の知の体系を背景とする存在として捉えられてきた。しかし14世紀には宗教諸学だけでなく多種多様な知を網羅する百科全書的な著作が盛んに著されるなど、宗教学者と書記官僚との境界線を前提にした枠組みでは捉え切れない事象が見られる。こうした状況を説明できるような新たな知識人理解が必要と考えた。

第二は、西アラブ地域(リビア砂漠以西、マグリブ)と東アラブ地域(エジプト以東、マシュリク)との関係をどのように捉えるかという点である。従来、両地域の研究は十分な連携をもって進められてきたとは言いがたく、特に我が国においてはマグリブ地域の専門家が少ないこともあって、東西両地域を横断するような視点からの研究はほとんどなかった。しかし、イブン・ハルドゥーンが前半生をマグリブ地域で、後半生をマシュリク地域で過ごしたことが示すように、両地域には彼のような存在を可能にする共通の文化的基盤がある。近年、注目を集めているペルシア語文化圏に対応するような概念がこの両地域においても成り立ち得るか否かの検討が必要と考えた。

13世紀のモンゴル侵入以降の中東・地中海地域は、アッバース朝滅亡による政治秩序の変化という大きな歴史的変動を経験する。またペルシア語文化圏の伸長もあいまって、アラビア語を共通言語とする知識人の活動空間は重心が大きく西に傾いていく。このような再編の時代のアラビア語文化圏の様相を明らかにしようというのが、本研究課題の着想である。

2. 研究の目的

以上のような背景と問題関心を踏まえ、本研究では13～15世紀のアラビア語文化圏の知識人について、その内部の地域的多様性も念頭におきながら、彼らが担う学問体系と同時代の政治・社会状況との関連を捉え直すことを目的とした。その際、本研究の着想の経緯から、マグリブ出身のイブン・ハルドゥーンとマシュリク出身のウマリーという当該時期を代表する二人の知識人を主たる研究対象とし、以下の3点を明らかにすることとした。

(1) 学問の体系

二人の知識人の経歴や著作を精査し、彼らが身につけた学問を具体的に明らかにする。さらに、両者相互の比較や他の同時代知識人が修めた学問との比較を通して、当時のアラビア語圏の知識人に求められていた学問体系を明らかにする。

(2) 社会との関連

二人の知識人が同時代の国家や社会とどのような関係を取り結んでいたかを検討し、その学問と政治・社会状況との関連性を、13世紀以降の当該地域の歴史的な変動を視野に入れつつ、明らかにする。

(3) アラビア語圏の再定義

以上の諸点を、マシュリク地域とマグリブ地域の差異性と共通性という視点から整理する。さらに同時代のペルシア語圏の事例とも比較し、両者の共通点と相違点を明らかにする。これにより、アラビア語圏の知識人と学問の特徴をその内と外から捉え直す。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、イブン・ハルドゥーン研究班とウマリー研究班を組織し、それぞれにおいて複数のメンバーが共同して二人の知識人のテキストの読み解きにあたることとした。また、本研究の構成メンバー各自が上述の(1)から(3)の目的のいずれかをふまえた個人研究を遂行する。これらの研究成果は、科研メンバー全体の合同研究会で共有をはかるとともに、国際学会でのパネル組織や海外の関連研究者の招聘を通じて、アラビア語文化圏の全体像を提示することを目指した。

研究に当たっては、以下の二つの方法を重視した。

第一に、厳密な文献学的手法である。史料となる文献を精査に読み込むことは当然であるが、その際、校訂テキストのみに依拠するのではなく、手稿本も活用して、著作がどのようにして成

立したか、異本の存在は何を意味するのか、作成されたモノとしての写本がどのように利用されたのか、複数の著作間の引用関係はどうなっているかといった点にまで踏み込んで検討をおこなうこととした。

第二に、共同研究の手法である。人文科学系の研究では単独で文献を読み解く個人研究のスタイルが一般的であるが、本研究では複数の人間が同時に文献を読み解くスタイルをとった。同じ問題関心を共有しながらも、それぞれ異なる専門知識を持つ研究者が、ひとつの文献に共同して取り組むことで、個人研究では達成しがたい幅広い読み解きが実現できることを期した。

4. 研究成果

まず第一に、ウマリーとイブン・ハルドゥーンという二人の知識人のテキスト読解を進め、それぞれがどのような学問を身につけ、それが国家や社会とどのような関わりを有していたかを明らかにした。ウマリーの官僚手引書は、郵便や伝書鳩の運用にも言及するなどきわめて実用的な知にかかわるものだが、誓約文書の書式例文においては誓約者の宗教・宗派の信条に合致した文言が用いられるなど宗教諸学の知を背後に想定できるような側面もある。ウマリーの官僚手引書については日本語訳を部分的に刊行することができた。またイブン・ハルドゥーン自伝についても翻訳刊行の準備を進めている。これと関連してイブン・ハルドゥーンの著作活動の諸側面についても成果があった。自筆本と思われる手稿本の分析を通して自伝の形成過程が明らかになったほか、著名な『歴史序説』が彼の大部の史書の中でどのような位置を占めるのかについての理解も進んだ。

第二に、この二人に限らずアラビア語文化圏における様々な知識人たちの学問やその社会との関わりについて多くの事例研究が得られた。この中には、13世紀前後におけるハディース学の変容、自筆写本の精査を通じた歴史書執筆の過程、書簡を通じた知識人たちのコミュニケーションの様相、ダマスカス社会と知識人との関わりなど、様々な点を明らかにした研究が含まれる。また同時に、ワクフによる寄進戦略や水利行政など、宗教諸学の知や実務的な知を背景とする社会の諸相についても成果を得ることができた。

第三に、マシュリク・マグリブ間の差異性と共通性という視点を導入することにより、アラビア語文化圏を一体性と多様性の両面から理解する糸口を得ることができた。イブン・ハルドゥーンの身につけたマグリブの知の伝統がどのようにマシュリク地域で受容されたのかや、イブン・ハルドゥーンをはじめとするマグリブの知識人の姿が地域を超えてどのように表象されるのかといった研究からは、東西の知識人の営みが相互に深く関連しながらも、無視しがたい地域差をはらんでいたことを明らかにすることができた。

第三の点と関連して、スペインを中心に展開されている国際的な研究プロジェクト「ローカルな文脈とグローバルな動態：イスラーム世界東方におけるアンダルスとマグリブ Contextos locales y dinámicas globales: al-Andalus y el Magreb en el Oriente islámico / Local contexts and global dynamics: al-Andalus and the Maghreb in the Islamic East(通称AMOI)」と協力関係を築くことができたことも大きな成果であった。2018年度にはスペインで開催されたワークショップに本研究課題の構成メンバーが参加する一方、翌年度にはスペインから研究者を招聘して第6回国際マムルーク学会(Sixth Conference of the School of Mamluk Studies)において、「マムルーク朝期における地域を越える知識人活動：アンダルスとホラーサーンからの視点 Intellectual activities across the regions in the Mamluk period: Views from al-Andalus and Khurasan」と題するパネルを組織することができた。これらの活動をとおして、アラビア語文化圏を理解するにあたってマシュリクのみならずマグリブの視点を導入することの意義を再認識するに至った。

しかし、アラビア語文化圏をマシュリクとマグリブという東西二極のみで理解することはできない。また、本研究課題の中ではアナトリアなど非アラビア語圏からアラビア語文化圏に参入してくる知識人の存在も指摘された。当初予定しながら必ずしも十分に検討できなかったペルシア語文化圏との関連も含め、地域の視点からアラビア語文化圏を見直すことが次の課題として浮上してきた。この課題は、2022年度から始まった新たな研究課題である基盤研究(B)「地域から見直すアラビア語文化圏：11-15世紀」において、スペインの後継プロジェクトAMOI-2との協力関係を引き続き維持しながら、我が国の研究者コミュニティの強みであるマシュリク研究者の層の厚さを生かしつつ追求していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 佐藤健太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 アンダルの形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大黒俊二・林佳世子責任編集、大月康弘・清水和裕編集協力『岩波講座世界歴史 8 西アジアとヨーロッパの形成 8~10世紀』岩波書店	6. 最初と最後の頁 245-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Kentaro	4. 巻 -
2. 論文標題 Isnad of Ibn Khaldun: Maghribi Tradition of Knowledge in Mamluk Cairo	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Maribel Fierro & Mayte Penelas eds., The Maghrib in the Mashriq. Knowledge, Travel and Identity, Berlin: De Gruyter	6. 最初と最後の頁 399-410
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9783110713305-014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか5名	4. 巻 78
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（11）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 115-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか6名	4. 巻 79
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（12）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 21-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか7名	4. 巻 80
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(13)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 45-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobutaka Nakamachi	4. 巻 -
2. 論文標題 A Historiographical Analysis of the Four Chronicles Attributed to Badr al-Din al-`Ayni	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Stephan Conerman and Toru Miura eds., Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517)	6. 最初と最後の頁 113-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中町 信孝	4. 巻 93
2. 論文標題 オスマン朝時代におけるアラビア語稿本の受容: トルコ・イスラム美術博物館所蔵『真珠の首飾り』稿本群の分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 24-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/seinan-asia-kenkyu_93_24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 Writing the Biography of Ibn Khaldun	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Maribel Fierro & Mayte Penelas eds., The Maghrib in the Mashriq. Knowledge, Travel and Identity, Berlin: De Gruyter	6. 最初と最後の頁 515-535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110713305-019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 Careers and Activities of mamluk Traders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Stephan Conerman and Toru Miura eds., Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517)	6. 最初と最後の頁 229-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐大介	4. 巻 -
2. 論文標題 西アジアの軍人奴隷政権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大黒俊二・林佳世子責任編集、大月康弘・清水和裕編集協力『岩波講座世界歴史 8 西アジアとヨーロッパの形成 8~10世紀』岩波書店	6. 最初と最後の頁 137-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐大介	4. 巻 46
2. 論文標題 14世紀末~16世紀初頭エジプトの地方行政と徴税請負の発展：ムタダリクに注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央大学アジア史研究	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 -
2. 論文標題 'Who should benefit from my Waqf?' Mamluks' Views on Progeny, Lineage, and Family based on their Waqf Stipulations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Anna Kollatz ed., Mamluk Descendants: In Search for the awlad al-nas, Gottingen: Bonn University Press	6. 最初と最後の頁 173-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14220/9783737014588.173	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Waqf as a Means of Securing Financial Assets: The "Self-Benefiting Waqf" in Mamluk Egypt and Syria	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Amalia Levanoni ed., Egypt and Syria under Mamluk Rule: Political, Social and Cultural Aspects, Leiden: Brill	6. 最初と最後の頁 271-291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004459717_013	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Charity and Endowments of the Civilian Elite: The Case of Zayn al-Din `Abd al-Basit, the nazir al-jaysh (d. 854/1451)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Stephan Conerman and Toru Miura eds., Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517)	6. 最初と最後の頁 57-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳谷あゆみ	4. 巻 -
2. 論文標題 「二つの春の母」モスルの十二・十三世紀：ザンギー朝下の建設と破壊	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 守川知子 (編) 『都市からひもとく西アジア』 勉誠出版	6. 最初と最後の頁 32-47頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井悠太	4. 巻 102-1
2. 論文標題 主従関係のアサビーヤ：イブン・ハルドゥーン王朝論における非血縁的結合の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋学報	6. 最初と最後の頁 64-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maiko Noguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Communicating a Biography. A Comparison of the Maghribi-Andalusi and Mashriqi Sources on al-Qadi`lyad	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Maribel Fierro & Mayte Penelas eds., The Maghrib in the Mashriq. Knowledge, Travel and Identity, Berlin: De Gruyter	6. 最初と最後の頁 143-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110713305-006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか	4. 巻 77
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(10)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 25-45(88-108)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nobutaka Nakamachi	4. 巻 -
2. 論文標題 Al-`Ayni` s working method for his chronicles: analysis of his autographical manuscripts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 F. Bauden & E. Fransen eds., In the Author's Hand: Holograph and Authorial Manuscripts in the Islamic Handwritten Tradition	6. 最初と最後の頁 277-299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004413177_009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Retsu Hashizume	4. 巻 29-2
2. 論文標題 Recruitment of Intellectuals in an Early Islamic Society: Mainly in the Buwayhid period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum: International Journal of the History of Science Society of Japan	6. 最初と最後の頁 198-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Retsu Hashizume	4. 巻 -
2. 論文標題 Textual Criticism of the Manuscripts of Ibn Khaldun's Autobiography	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 F. Bauden & E. Fransen eds., In the Author's Hand: Holograph and Authorial Manuscripts in the Islamic Handwritten Tradition	6. 最初と最後の頁 300 322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004413177_010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか	4. 巻 76
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(9)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 21-51(86-116)頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤隆郎	4. 巻 -
2. 論文標題 フィクションのなかに実像を探そう: あるカリフの虚像と実像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 佐藤昇(編)『歴史の見方・考え方』山川出版社	6. 最初と最後の頁 78-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 54
2. 論文標題 The Last Mamluk Princess, Her Endowment, and Her Family History	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 54
2. 論文標題 Father's Will, Daughter's Waqf: A Testamentary Waqf and Its Female Founder/Administrator in Fourteenth-Century Egypt	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi and Takao Ito	4. 巻 54
2. 論文標題 Introduction: An Overview of Recent Studies on Women and Family in Mamluk Society	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 82
2. 論文標題 The Waqf-endowment Strategy of a Mamluk Military Man: The Contexts, Motives, and Purposes of the Endowments of Qijmas al-Ishaqi (d. 1487)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 25-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中町信孝	4. 巻 169
2. 論文標題 イブン・アイニーの生涯：武人か文人か？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 甲南大学紀要 文学編	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋爪烈	4. 巻 90
2. 論文標題 書評 森本公誠(翻訳) タヌーヒー 『イスラム帝国夜話』 上下巻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井悠太	4. 巻 第100巻2号
2. 論文標題 イブン・ハルドゥーン著『実例』テキストに関する諸問題 スレイマニエ図書館所蔵Damad Ibrahim Pasa 863-869の検討から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋学報	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計37件(うち招待講演 2件/うち国際学会 24件)

1. 発表者名 Kentaro Sato
2. 発表標題 Days with Mostapha Naji: Recount
3. 学会等名 The Taste of Knowledge. Friendship and Fieldwork with Mostapha Naji (1951-2000) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobutaka Nakamachi
2. 発表標題 A Tunisian scholar in Medieval Cairo: Knowledge transmission from al-Ayni to al-Washtati and beyond
3. 学会等名 Workshop "Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas," LabiSAIp, Mendrisio (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobutaka Nakamachi
2. 発表標題 The Circulation of Arabic Manuscripts in the Ottoman Period: A Survey of the Manuscripts of `Iqd al-Juman in Turk ve Islam Eserleri Muzesi
3. 学会等名 The eighth conference of the School of Mamluk studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Awlad al-nas during and after the Reign of al-Nasir Hasan
3. 学会等名 In Search for a Hidden Group: Where are the awlad al-nas? (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤隆郎
2. 発表標題 マシュハド・レザー廟図書館所蔵のアラビア語文書集成について
3. 学会等名 東洋史研究会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Daisuke Igarashi
2. 発表標題 Freed Slaves and Their Descendants in Mamluk Waqf Documents
3. 学会等名 International Symposium “Strong Asymmetries in Social Relations Compared: The Mamluk Sultanate, Medieval Japan and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ayumi YANAGIYA
2. 発表標題 Ubadah Bookshop (Dar `Ubadah) in Damascus: A place for books and exchanges
3. 学会等名 The Taste of Knowledge. Friendship and Fieldwork with Mostapha Naji (1951-2000) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayumi YANAGIYA
2. 発表標題 Rulers echoing in the ears: al-Shi'ar in Syrian cities of the 5th-6th / 11th-12th centuries
3. 学会等名 Echoes from the Medieval West Asian Cities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 ザンギー朝の「アターベク」史料
3. 学会等名 第3回中世中東史料研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 王子たちの処遇：サラーフ・アッディーン（サラディン）のファーティマ朝廃絶について
3. 学会等名 日本学術振興会カイロ研究連絡センター 2021年度第11回定例懇話会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 ザンギー朝の解体と存続：「バイト」の変容
3. 学会等名 三田史学会大会東洋史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒井悠太
2. 発表標題 「民族史」としての『イバルの書』：前近代アラビア語史書への構造的分析の試み
3. 学会等名 日本中東学会第38回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒井悠太
2. 発表標題 歴史家としてのイブン・ハルドゥーンを読む：理性／伝統の二項対立を越えて
3. 学会等名 日本オリエント学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中町信孝
2. 発表標題 オスマン朝時代のアラビア語写本：アイニー『真珠の首飾り』の受容と流布
3. 学会等名 アラビア語文化圏科研合同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森山央朗
2. 発表標題 ホラーサーン系「ハディースの徒」の断絶と継承：13世紀前後のハディース学の変容
3. 学会等名 アラビア語文化圏科研合同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Igarashi
2. 発表標題 Who were the Mutadarrikun?: Tax-Farming and Rural Society in Circassian Mamluk Egypt
3. 学会等名 Inaugural Workshop of the EGYLandscape Project: Sources, Methods, and Tools; Center for Near and Middle Eastern Studies (Philipps-Universität Marburg) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobutaka Nakamachi
2. 発表標題 From `Ayntab to Cairo: The `Ulama Network seen from al-`Ayni 's Autobiographical Descriptions
3. 学会等名 International Workshop: "Network and Urban Landscape in Historical Perspective" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruaki Moriyama
2. 発表標題 From Khurasani "Ashab al-Hadith" to Mamlukid Shafi'i School: Succession to the Classical Hadith Studies
3. 学会等名 Sixth Conference of the School of Mamluk Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takenori Yoshimura
2. 発表標題 Sabils in Cairo
3. 学会等名 International Workshop: “Network and Urban Landscape in Historical Perspective” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 ザンギー朝・アイユーブ朝の成立と抗争：自己認識と承認要請
3. 学会等名 科研基盤(A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 12世紀イラク以西の政権におけるヒドゥマ：地域性と限界をめぐって
3. 学会等名 科研基盤(A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」第2回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 カーディー・アルファーディルの書簡群：特徴と用途
3. 学会等名 第26回イスラーム初期史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Sato
2. 発表標題 Isnad of Ibn Khaldun: A Scholar in Cairo with Maghribi Tradition of Knowledge
3. 学会等名 Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健太郎
2. 発表標題 西方のカリフ政権とイブン・ハルドゥーン
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Sato
2. 発表標題 Maghribi Tradition of Knowledge in Mamluk Cairo: An Analysis of Isnad of Ibn Khaldun
3. 学会等名 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 The Maghrib in the Mashriq (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Manami Kondo
2. 発表標題 Taqiy al-Din al-Subki and the Society in Damascus
3. 学会等名 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobutaka Nakamachi
2. 発表標題 Why did al-Ayni erroneously note his source as Ibn Kathir?
3. 学会等名 5th Conference of the School of Mamluk Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi Yanagiya
2. 発表標題 I haven't received your reply yet -- letter exchange of medieval Islamic intellectuals
3. 学会等名 Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi Yanagiya
2. 発表標題 Private letter exchange of intellectuals in medieval Arabic world: focusing mainly on al-Qadi al-Fadil and Imad al-Din al-Isfahani
3. 学会等名 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takenori Yoshimura
2. 発表標題 The urban life, public sphere and its concept in the Muslim cities: an analysis of Sabil-Kuttab in historic Cairo
3. 学会等名 Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉村武典
2. 発表標題 歴史的都市カイロの発展と水施設：地図情報と叙述史料からの考察
3. 学会等名 フィールドネット・ワークショップ「地理情報から読み解く歴史：イスラーム史におけるGISの活用」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Retsu Hashizume
2. 発表標題 Lutfi Pasha ' s theory of the caliphate
3. 学会等名 Kingship, Ideology, Discourse Legitimation of Islamicate Dynasties (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuta Arai
2. 発表標題 Re-thinking Ibn Khaldun ' s Method of Writing Mashriq History
3. 学会等名 World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES) Seville 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuta Arai
2. 発表標題 Rethinking Ibn Khaldun ' s Perspective on " Change " of Historical Circumstances: Theorization and Description of Muslim History
3. 学会等名 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 荒井悠太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 65
3. 書名 或る中世写本の旅路：イブン・ハルドゥーン『イバルの書』の伝播	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷口 淳一 (Taniguchi Junichi) (90293844)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
研究分担者	近藤 真美 (Kondo Manami) (60314168)	龍谷大学・文学部・准教授 (34316)	
研究分担者	伊藤 隆郎 (Ito Takao) (60464260)	神戸大学・人文学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	中町 信孝 (Nakamachi Nobutaka) (70465384)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	五十嵐 大介 (Igarashi Daisuke) (20508907)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	橋爪 烈 (Hashizume Retsu) (10613862)	関西大学・文学部・准教授 (34416)	
研究協力者	森山 央朗 (Moriyama Teruaki) (60707165)	同志社大学・神学部・教授 (34310)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野口 舞子 (Noguchi Maiko) (00834623)	信州大学・学術研究院教育学系・助教 (13601)	
研究協力者	荒井 悠太 (Arai Yuta)		
連携研究者	柳谷 あゆみ (Yanagiya Ayumi) (90450220)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員 (72622)	
連携研究者	吉村 武典 (Yoshimura Takenori) (70588772)	大東文化大学・国際関係学部・准教授 (32636)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Sixth Conference of the School of Mamluk Studies	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Second German-Japanese Workshop on Mamlukology	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関